

「市民協働のまちづくり」とは？ 「みんなで進める千歳のまちづくり条例」の前文を紹介します

条例の前文

(省略) 現在、少子高齢化の進展などにより社会・経済状況が変化する中で、ゆとりや生活の向上を求めて市民の価値観が多様化・複雑化し、特色あるまちづくりが求められています。

このような状況の中で、住みよさを実感し、誇りを持てるまちを実現するためには、これまで行政が担ってきた公共の分野に市全体で取り組むことが求められ、市民が自主的なまちづくり活動を行うとともに、これまで以上に市民のニーズを反映しながら行政活動が行われることが重要となっています。

かつて、私たちのまちでは、村民総出で無償の汗を流して抜根と整地を行い、広大な火山灰地に着陸場をつくりました。自分の持っている知識や能力を生かし、社会貢献したいという市民の意識の高まりがみられる今こそ、「事に当たって一致団結する」先人たちの精神を呼び覚まし、みんなで力を合わせ、知恵を出し、汗を流すことが求められています。

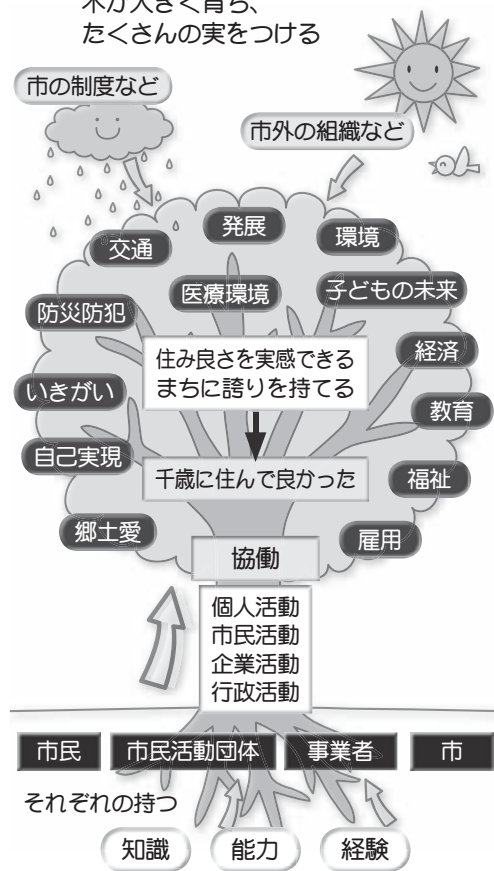
それは、本来のまちづくりの姿であり、千歳が目指す「みんなで進めるまちづくり（市民協働によるまちづくり）」です。

そして、市民協働を推進するため

には、理念や役割分担を明確にするとともに、課題・情報の共有、人材

「市民協働のまちづくり」のイメージ

みんなの力で、
木が大きく育ち、
たくさんの実をつける



これからの市民協働に必要なこと
それは、「担い手」を育てること

基本的な考え方

市民協働によるまちづくりを進めるためには、つぎの2つの考え方を持つことが大切です。

- ①皆さんと市が良きパートナーとして、お互いの特性や役割を理解し、対等の関係で取り組むこと
- ②市民の皆さんの公益活動（社会貢献活動）に協力して取り組み、活性化させること

お互いの役割

市民、事業者、市の役割は、つぎのとおりです。

○市民・市民活動団体 ——まちづくりの主役として

- ▼地域社会に関心を持って、自らできることを考え行動する
- ▼市が行う活動に積極的に参加する

○事業者 ——地域社会の一員として

- ▼市民協働に関心を持つ
- ▼市民公益活動の大切さを理解し、協力や支援を行う

○市

——まちづくりの専門機関として

- ▼市民公益活動に必要な助成や活動の場を提供するなど、環境を整備する
- ▼市民の皆さんが市で行う活動に参加する機会をつくる
- ▼市が行う活動の情報を積極的に公開するとともに、市民の皆さんからの情報を集め、まちづくりの情報を共有する
- ▼共有する情報を市の計画に活かす
- ▼市民協働への職員の意識を高める

担い手を育てる

市は、これまでに市民の皆さんがまちづくりに参加できる環境づくりを進めてきました。

今、大切なことは、市民協働の担い手を増やすことです。

市が行う取組に「参画（※）」していただくことが、担い手を育て、市民協働に参加する方を増やすことにつながります。

※「参画」：出席するだけでなく、企画や運営などの段階から積極的に関わって参加すること